

10月8日(火)

神様は讚美に値するお方です

聖書朗読 詩篇 100:1~5

主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで。

詩 136:1

雄弁かつ効果的な散文で、詩篇の作者は神様への讚美を説いています。私たちが神様を讚美する理由は何でしょうか。それは、神様が神であるからです。神様は偉大で力強いお方です。神様が私たちを創造されたのであって、私たちが神様を創造したのではありません。私たちは神様の民であり、神様の牧場の羊です。私たちが神様を讚美するのは、私たちが神様のご支配のもとにあることの宣言です。神様の御力は、神様が卓越したお方であることを示しています。しかし、偉大さだけでは、必ずしも讚美し礼拝するに値するわけではありません。少なくとも、詩篇の作者がするような、神様をたたえ喜びに満ちた讚美に値するわけではありません。偉大なだけの神というのは、喜びを与えるのと同じくらい恐怖を与える可能性もあるからです。

しかし、私たちの神様は偉大なお方ということばでは言い表せません。神様は素晴らしいお方であり、真実で正しいお方です。神様は私たちの人生を祝福で満たし、私たちが他の人に対して誠実であるよう促します。また神様のすばらしさは、私たちが正義のために立ち上がり、虐げられている人たちを助ける力を与えて下さいます。そして、この世の悪が善を支配しているように見えるとき、神様は、私たちに耐える力を与えてくれます。世界が破滅の道をたどっているように見えても、私たちは希望を失いません。なぜなら、私たちをご支配して下さる神様は、私たちを守って下さることがお出来になる完全なお方であり、これから後の世も、神様の真実の愛で満たして下さいます。

讚美歌 527 わが喜び わがのぞみ

祈り 愛するお父様。私たちは、この宇宙を支配する力が、善によって支配され、永遠に続くことを覚え、感謝と安堵の気持ちで満たされます。

イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 ラボック / デビッド・ラングフォード

10月9日(水)

主の御恵みへの感謝の証

聖書朗読 詩篇 103:1~10

主が、ことごとく私に良くしてくださったことについて、私は主に何をお返ししようか。

詩 116:12

ヒゼキヤ王は自分が間もなく死ぬことを知り、主に命を助けてくださるよう懇願しました。あわれみ深い神様は、ヒゼキヤの願いをかなえてくださいましたが、『ところが、ヒゼキヤは、自分に与えられた恵みにしたがって報いようとせず、かえってその心を高ぶらせた。』(歴代誌Ⅱ 32:25)のです。しかし、次の節では、『ヒゼキヤが、その心の高ぶりを捨ててへりくだり』と書いてあります。

ダビデは、ヒゼキヤのような過ちは犯していません。詩篇103篇において、ダビデは“永遠の恩人”である神様への感謝の気持ちで溢れています。『わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。』(2節)ダビデは、神様が自分にしてくださったことを、感謝の気持ちを込めて一つ一つ挙げていきます。そうすることによって詩篇の読者を励ましているのです。

私たちが、すべての恩恵の源であるお方を、どれほど頼っているかを覚えるには、へりくだる気持ちが必要です。自力で成功した人はひとりもいません。すべての賜物は、主がくださったものなのです。

そして、主の慈悲に対する感謝の気持ちを慈愛の行為によって証します。

— アンナ・バーゴールド*

*編注:イギリスの著名な詩人、エッセイスト、文芸評論家、編集者、児童文学の著者。1743-1825

讚美歌 9 力の主をほめたたえまつれ

祈り お父様。あなたの豊かなご親切すべてに感謝し、あなたの日々のいつくしみに、私たちの日々の感謝の気持ちと、感謝をもった人生でお応えすることができますように。イエス様のお名前において。アーメン。



テキサス州 コマース / デビッド・ギブソン

10月10日(木)

主を礼拝する

聖書朗読 詩篇 149:1~2

わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れたは、あなたがたは何もすることができないからです。 ヨハネ 15:5

神様の民が神様にお仕えし、神様にご栄光を帰することは礼拝からスタートします。ですから、私たちはまず、神様を礼拝することを私たちは学ばなければなりません。私たちが共に礼拝するとき、私たちは讚美歌、聖書、祈りを通して互いに仕え合います。キリストのからだの一部として、私たちはキリストのもとで、互いに影響し合います。またキリストにあって、互いを必要としています。教会という家族は、若い人と年配者、新しい信者と熟練した信者で構成されています。仲間外れの人はいません。主への讚美は、神様の私たちへの偉大なるめぐみと私たちの神様に対する誠実さを証しします。私たちは聖霊において共に歩み、みことばの知識を深めていきます。詩篇は、神様を礼拝し、敬い、神様がなさったことと神様の大きい愛をほめたたえることを教えて下さっています。神様を賛美しましょう。

私たちは、驚きの不足のために滅びるのであって、

不思議の不足のためではない。* — G.K. チェスタトン**

*訳注:神様のみわざや恵みには限りはない。私たちが、それを驚きの気持ちをもって賛美しないことに問題があるのだ。

**イギリスの作家、批評家、詩人、随筆家。探偵小説“ブラウン神父”シリーズで有名。1874-1936

讚美歌 II 59 すべてのもの統らず神よ

祈り 愛する神様。私たちは言葉と歌であなたを賛美します。私たちの人生においてあなたがしてくださるすべてのことに感謝します。今日、私たちがあなたを礼拝するとき、あなたを心から敬います。イエス様のお名前において。アーメン。



ミシシッピ州 オリーブ ブランチ / エディ C・ルイス

10月11日(金)

主をほめたたえよ!

聖書朗読 詩篇 150篇

主は、私の力であり、ほめ歌である。主は、私の救いとなられた。この方こそ、わが神。私はこの方をほめたたえる。私の父の神。この方を私はあがめる。

出エジプト 15:2

私たちの教会では、教会の建物の隣りに美しい松の木と榎の木で作られた公園があります。この公園は、教会が所有しているものですが、誰が来て遊んでも自由です。そこには1.5マイル(約2.5km)の歩道があり、散歩して楽しむこともできます。その歩道のところどころに、聖書箇所が書かれています。私はその公園を散歩して聖書箇所を辿ることが大好きです。運動不足解消のウォーキングに良いのは言うまでもありません。しかし、それ以上に、神様が創られた自然の中で、この木の歩道を散歩しながら神様のみことばを瞑想し考えることができるのはすばらしいめぐみなのです。

私たちが神様をほめたたえ、讚美する理由は溢れるほどあります。神様はたった一人の御子であるイエス様を送って下さいました。神様は自然の美しさと生命をお与え下さいました。神様は、私たちに祈りを通して神様と交わり、必要を求め、願いや恐れを打ち明けることをお許し下さいました。そして、私たちに下さったことに対して私たちが神様に感謝するという特権をも下さいました。

私たちはいつでも主をほめたたえることができます。日々の生活の中で、今日すべきことをし、また、仕事の打ち合わせなどを一つ一つこなしていく中で、いつでも神様をほめたたえることができます。いつもすばらしい祝福を下さっている神様をほめたたえましょう。

私は、生きているかぎり、主をほめたたえよう。

いのちのあるかぎり、私の神に、ほめ歌をうたおう。 — 詩篇146:2

讚美歌 79 ほめたたえよ つくり主を

祈り ご在天のお父様、私たちに備えて下さったあらゆる恵みを感謝します。私たちをお創り下さった主をほめたたえます。イエス様の名により。アーメン

テキサス州 ヒューストン / ジェイン・ポー・マシ

10月12日(土)

そう、それだよ！

聖書朗読 詩篇 150篇

こういうわけで、あなたがたは、食べるにも、飲むにも、何をするにも、ただ神の栄光を現すためにしなさい。
コリント I 10:31

スポーツ競技のコーチが使う独特の言葉、コーチによって良く使われるフレーズがあります。バスケットボールの試合でチームが負けている時、選手がコーチが言った通りにできた時、コーチが良く使う言葉を思い出せますか。たいてい何て叫ぶか予想できるのです。「そう、それだよ！」

詩篇には、胸がすくほどの美しい祈りと讃美が収められています。この霊的詩集は、人間の生活と豊かな感情の集合体です。“歌う”祈りの讃美、疑い、感謝、悲しみ、希望などあらゆる思いが掲載されています。あなたでしたらこの驚くべき讃美の最後をどのように締めくくるでしょうか。詩篇150篇、そこには詩篇を終結することばが述べられています。終結のことばに、私たちは「なぜ」と思うかもしれません。つまり、詩篇150篇には、なぜ主を讃美することばだけが記されているのでしょうか。

それは詩篇150篇のあなたへのチャレンジではないでしょうか。あなたが言えること、出来ることは、まず神をほめたたえることだと言っているのではないのでしょうか。周りの方々にも声を掛けて、共に神をほめたたえましょう。息のあるもの全て、主をほめたたえましょう。「そう、それなんです！」神様が求めているのは。

讃美歌 339 君なるイエスよ

祈り 愛する神様、あなたの創造の不思議を感謝することばが見つからないほどです。あなたへの讃美を言葉と行動でほめたたえるシンフォニーに加わることができるよう。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。



テネシー州 ブレントウッド / アール D・ラベンダー

10月13日(日)

知恵が呼んでいます

聖書朗読 箴言 9:1~6

幸いなことよ。悪者のはかりごとに歩まず、罪人の道に立たず、あざける者の座に着かなかった、その人。
詩 1:1

正しい道を選ぶというのは私にとっては何の問題もないように思えます。しかし、私の友達にとっては違います。彼は人生において間違った選択をしてきました。彼の人生は問題山積みの人生なのです。彼が育った環境では、思慮深く道徳的判断をすることを学びませんでした。また人生において彼は良き人間として生きることを学ばず、またそのような模範となる人間関係を築いている人物に出会えなかったようです。

知恵は、大学でも教えているかもしれませんが、多くの場合、それは日々の生活の中で学ぶものです。この道徳を教えるのは時として学校の先生かもしれませんが、たいていは、両親であり、友達、ご近所のおばちゃん、おじちゃんであり、また心身ともに健全で、賢い周りの方々から学ぶことの方がはるかに多いのではないのでしょうか。箴言9章は知恵を人間として描いています。『知恵は自分の家を建て、…わきまのない者はだれでも、…私の食事を食べに来なさい。…わきまのないことを捨てて、生きなさい。…』

例えば、“知恵の大学”というものがあるとするならば、そのカリキュラムは、ほんの数科目かもしれませんが、その中には【健康的な人間関係】、【信仰を持つ生き方】、【罪の本当の危険】、【日々の生活の訓練】のような科目が並ぶのではないのでしょうか。

詩篇1篇は、主のことばの中に住んでいる者たちと『悪者のはかりごとに歩』んでいる者との対比です。それらの人々は根無し草であり、誘惑に弱いのです。

新聖歌 291 神の国と神の義を

祈り 恵みに富みたもうお父様、毎日、多くの賜物をもって祝福して下さって、ありがとうございます。あなたの大いなる賜物と愛を覚えていられますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

カリフォルニア州 マーセッド / ブルース W・ローグ